

1-4-8. 奄美大島エコツアーガイド連絡協議会

(鹿児島県奄美市、大和村、宇検村、瀬戸内町、龍郷町)

(1) アドバイザー派遣申請の背景

●地域の概要

奄美大島は奄美群島最大の島で、面積は 712.52 km² で全群島面積の 57.9%、人口は 62,716 人で群島総人口の 54.8% を占める扇形の島であり、現在、奄美市、大和村、宇検村、瀬戸内町、龍郷町の 1 市 2 町 2 村からなっている。群島の首都的性格を有する奄美市名瀬は、奄美大島の西北部に位置し、航路距離で鹿児島港から 383 km、那覇港から 352 km の地点にあり、名実共に群島の政治、経済、交通の中心地である。

この島は、四万十帯に属する堆積岩類（砂岩、頁岩）がほぼ全域にわたって広く分布している。山岳中の最高峰は湯湾岳（694m）で、島の中央からやや西側にそびえ立っており、油井岳、松長山、鳥ヶ峰岳等の 400m 以上の山岳とともに本島の脊柱部を構成している。海岸線は、概して良湾良港に恵まれている。なかでも名瀬港は群島唯一の重要港湾で、貨客船の出入が頻繁であり、30,000 トン級の岸壁 1 バースが平成 16 年 4 月供用され 10,000 トン級の岸壁 2 バースが整備されているほか、クルージング需要に対応するための整備が進められるとともに、港湾機能の充実を図るため本港地区の耐震岸壁及び沖防波堤の整備が進められている。

空港は、奄美市笠利町に奄美空港が昭和 63 年 7 月 10 日開港（旧空港：昭和 39 年 6 月 1 日開港）し、東京（羽田）－奄美間、大阪（伊丹）－奄美間、平成 26 年 7 月 1 日より、東京（成田）－奄美間を LCC（格安航空会社）がジェット機で就航しているほか、鹿児島－奄美間、那覇－奄美間、福岡－奄美間、群島内の各空港との間には DHC-8 型機及びサード機が就航している。

産業としては、さとうきび、野菜、果樹、肉用牛を主体とした農業と黒糖焼酎、大島紬が主なものであり、特産物としては大島紬、たんかん、パッションフルーツ、マンゴー、黒糖焼酎等がある。また、瀬戸内町、宇検村では、真珠、クロマグロ等の魚類の養殖が行われている。自然は、猛毒で知られているハブや、天然記念物として保護されているアマミノクロウサギ、オオトラツグミ、ルリカケス（昭和 40 年 5 月鹿児島県鳥に指定）、アカヒゲ、オカヤドカリ、アマミイシカワガエルなどの他、絶滅危惧種のリュウキュウアユ、アマミヤマシギ、アマミマルバネクワガタや奄美大島の固有種であるアマミセイシカ、アマミエビネなど、貴重な動植物が多く生息している

※【平成 27 年度奄美群島の概況より抜粋】

●アドバイザー派遣申請の背景・これまでの取り組み

奄美群島 12 市町村は、地域関係者が共通の認識のもと取組を推進するために、エコツーリズム推進の指針となる「奄美群島エコツーリズム推進全体構想」を作成し、平成 29 年 2 月 7 日に認定をいただいたところである。また、同年 3 月 7 日には、奄美群島の豊かな自然や多様な文化が評価され、世界自然遺産登録の保護担保措置となる国内 34 番目の国立公園に指定された。また、その豊かな自然や多様な文化をより理解しやすく伝えるために重要なエコツアーガイドの育成に取り組み、「奄美群島エコツ

アーガイド認定制度」を創設し、エコツアーガイドの社会的地位確立に繋がるよう努めている。

奄美群島国立公園の指定に加え、世界自然遺産登録が実現すると、観光入込客が大幅に増加し、観光振興・地域振興・経済効果に多大な影響が予想される。一方で過剰利用による野生動植物に対する影響や夜間の林道での高速走行によるロードキル、または盗掘・採集による希少な野生生物への影響も懸念されている。

奄美群島が徐々に注目されつつある中、エコツアー利用者のニーズも多様化しており、地域の魅力が損なわれないためにもエコツアーガイドの資質が非常に重要となっている。ルールへの遵守や知識の提供はもとより、利用者に対しては「ホスピタリティー」や「インタープリテーション」の実践がリピーターづくりには欠かせない。

このように奄美群島にとって追い風となる出来事がある一方、課題も山積している中、先進地域である尾瀬地域でガイドとして活躍されており、アドバイザーも務める安類氏に「エコツアーガイドの役割」や実際にガイドする上で必要な知識や技術・手法等についてアドバイスをいただく機会を設けたい。

(2) アドバイザー派遣の実施概要

日	時	平成 29 年 3 月 2 日（木）～平成 29 年 3 月 4 日（土）
場	所	鹿児島県奄美大島一円 講演会：AiAi 広場（奄美市名瀬末広町 14-10） 視察：湯湾岳（大島郡宇検村及び大和村周辺）、奄美南部ツアー（大島郡瀬戸内町周辺）
ア	ド	アドバイザー
		安類 智仁氏 （NPO 法人片品・山と森の学校 副代表、尾瀬ガイド協会 専務理事）
参	加	者
		計 29 名 奄美大島エコツアーガイド連絡協議会 登録ガイド 10 名 奄美大島エコツアーガイド連絡協議会 研修生 8 名 行政関係者 8 名 事務局 3 名
ス	ケ	スケジュール
		【1 日目】 14：30 奄美大島着 16：00～ 事前打ち合わせ@奄美群島広域事務組合 【2 日目】 09：30～ 散策@湯湾岳 15：00～ 講演会@AiAi ひろば 2 階会議室 演題：「ガイドに求められる役割とは？～尾瀬認定ガイドと考える～」 【3 日目】 09：00～ 奄美南部ツアー@大島郡瀬戸内町一円

(3) アドバイスの内容（議事録）

【ガイドに求められる役割】

顧客満足度、滞在日数、リピート率の向上

- お客様のニーズの把握が重要（事前に聞き取りを行う）
- 事前にメールや電話等でやり取りをする（希望を聞く）
- メールのやり取りは多い時で1日200件以上（素早い対応が安心感に繋がる）
- ナイトハイキング等は滞在日数の増加に繋がる（地域にお金が落ちる）

安全・行程管理

- エージェントのガイド依頼は時間厳守（決められた行程管理）
- ガイドレシオ（ガイドと参加者の比率）は安全管理上や満足度向上の点からも重要（理想は1:8）
- 安全管理マニュアル・防災マップ等の活用（緊急時に備えて）
- 繁忙期には安全対策員を雇用（ガイド事業者の互助会で共同出資）

地域の魅力PR、地域づくり

- 地域の名人とコラボレーションしたプログラムづくり（利用者と地域を結ぶことで、地域の魅力をPR）
- 主役はガイドではなく、お客様（ガイドは利用者と地域、地域と自然を結ぶ橋渡し役）

地域資源への配慮・モニタリング

- 固有種・特産種が多い地域（自然保護の意識が高いガイド・利用者）
- 利用のルールを守ったうえでの案内が必要（大半が国立公園特別保護地区）
- モニタリングの重要性（毎日歩くことで変化に気づき、環境保全に努める）
- 尾瀬学校の取り組み（環境教育として地域の自然資源の魅力と保全の重要性を伝える）

【利用と保全の仕組みづくり】

地域の自然保護の重要性

- 自然＝財産 財産は保護・適切な利用・独り占めしないことなどが必要
- ツキノワグマの保護（例：定点観察調査・食性調査・センサーカメラ調査・植物資源調査を実施）
- 調査結果を活かす（どんぐりが豊作な年の翌年は子熊がたくさん生まれる）
→翌年の利用対策ができる
- 尾瀬ビジョン「みんなの尾瀬をみんなで守りみんなで楽しむ」（多くの人に利用してもらい守る人を多く育てる）

ルール・マナーの遵守

- 木道は右側通行・動植物は採取禁止・外来種の侵入を防ぐ・ペットは持ち込まない・ごみは持ち帰るなど（解りやすく伝える）
- 日本で初めてのマイカー規制（マイカー規制＝入山規制ではない）
→渋滞が緩和されて入山者は快適となったため数は変わらない

利用と保全の調整

- 環境収容力と利用調整（1日の最大利用者数や1時間あたりの最大利用者数等から人や生態系に与える影響を算出する）→快適性が損なわれていないか？
- 入山者数のカウント（どれだけ利用されているか根拠が必要）
- 尾瀬は1日5,000人の利用が適正（5,000人を超える利用は1年に4日のみ）
- 「利用のルールを作ることが保護につながる」

○状況写真

【湯湾岳散策】



【講演会 1】



【講演会 2】



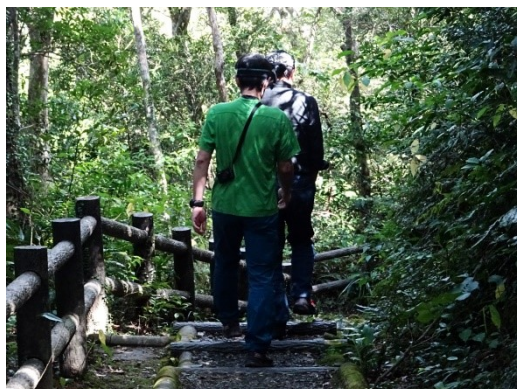
【講演会 3】



【南部ツアー（ホノホシ海岸）】



【南部ツアー（高知山展望台）】



(4) アドバイザー派遣実施の効果

1) 参加者や関係者に与えた効果

- 今後のガイド活動において、ガイドに求められる役割や自然の保護と適正利用についてのアドバイスをいただき大変参考になった。
- お客様ニーズへの対応について、自然の知識を備えるだけでなく、保険や救命講習等の安全管理も重要であることの認識が持てた。
- お客様の満足度をいかに高められるか、他のガイドや地域との連携がいかに大事か理解できた。

2) 今後、期待される効果

- お客様のニーズの把握と共にガイドのスキルにより、フィールドの使い分けをすることで利用の分散がされ、自然環境の保全・維持に寄与することが期待される。
- ガイドが地域との架け橋となり、地域のおみやげ店や拠点となる施設に立ち寄ることによって地域振興・地域活性化に繋がることが期待される。
- ごみの不法投棄や外来種対策等、地域の環境保全について責任を持って活動するガイドが多くいることで、地域住民の意識の向上に繋がることが期待される。

3) 今後の取り組み

- 環境保全・観光振興・地域振興のバランスの取れた発展を目指す奄美群島では、国立公園の指定やエコツアーリズム推進全体構想の認定、エコツアーガイド認定制度の策定など、エコツアーリズムを推進する体制が順調に整ってきているが、エコツアーガイドが果たす役割は非常に大きいと考えられる。豊かな自然や多様な文化の魅力を多くの人に体験してもらい、多くの人が保全の重要性を感じてもらい取り組みに期待したい。

(5) 今後の取組推進にあたり参考となった事項、その他感想

1) 参考となった事項

- 防災マニュアル・防災マップの作成（山小屋や防災ヘリとの連携）
- ガイドの影響力は強い（おみやげ選び、食事場所等）
- モニタリングによって、次年度の対策を考えることができる
- 利用調整における環境収容力の考え方（混雑する日は年間ごくわずか）

(6) エコツーリズム推進アドバイザーから地域へのアドバイス

安類 智仁氏 (NP0 法人片品・山と森の学校)

1) 地域における取組の現状と課題

①現状の取組

奄美群島は、鹿児島県本土と沖縄の中間に位置する有人 8 島の総称で、奄美大島の面積約 720 平方キロメートルは沖縄本島、佐渡島に次ぐ大きさである。かつては大陸の一部だったが、約 200 万年前に大陸から切り離され、独自の生態系や固有種が遺されてきたと考えられている。こうした固有種が生息・生育地する亜熱帯照葉樹林や美しい海岸景観、島毎に特徴的な自然環境を持つことから、奄美・琉球は平成 15 年に世界自然遺産候補地となり、平成 29 年 3 月 7 日には奄美群島国立公園として指定され、急ピッチで世界自然遺産への登録を目指している。

このため環境省、鹿児島県、市町村、奄美群島広域事務組合等の行政機関を中心に、遺産登録に向けた調査・協議・調整が進められている。とりわけ奄美群島広域事務組合は、「奄美大島エコツアーガイド連絡協議会」と「(島毎の) エコツーリズム推進協議会」の事務局として、同ツーリズム牽引の中心的役割を果たしている。

また、平成 29 年 2 月 15 日には推進法に基づく全体構想が認定され、奄美群島での「奄美群島エコツアーガイド認定制度」の運営と、ガイド育成が本格的に始まろうとしている。現状では「(島毎の) エコツーリズム推進協議会」に所属するガイドを対象に(登録ガイド)、一定の要件と 3.5 日間の研修を経て奄美群島認定ガイド(認定ガイド)となる 2 段階の制度を設けている。

②課題

湯湾岳や金作原などでの希少植物の盗掘、ナイトハイク中のアマミノクロウサギのロードキル、ノネコの脅威といった資源管理の面での課題が散見されるなか、希少種保護目的のパトロール、ナイトハイク中の運転マナー指導の徹底、必要に応じた施設整備等のソフト・ハード両面の対策が十分ではない。マングース対策には手厚い体制が取られているが、新たな課題に対応する柔軟性が求められている。

ガイドの活動は現地の特性を活かしたツアープログラムが企画されているが、営業や販路、また料金設定やリピートさせる工夫といった業として安定させる取り組みが必要である。こうした点はガイド認定制度の運営とともに、認定ガイドの周知を図る活動が必要である。

また、国立公園指定と世界自然遺産登録といったニュースが広く流れることで、今後は団体旅行客の増加が見込まれるが、こうした受け皿となる拠点整備と、残すべき原生自然エリアの立ち入り規制などの受入れ体制を整える必要がある。

2) 特に魅力を感じた地域資源等

①魅力を感じた地域資源

奄美群島は固有種・希少種の宝庫であるが、特筆すべきはそれらの動植物と人間との距離感の近さにあると感じた。湯湾岳の歩道を歩けば、その路傍に多くの固有種が見られ、鳴き交う野鳥たちは世界中の野鳥愛好家が集まるような希少種ばかりである。この他にも住用湾に広がるマングローブ原生林、宇検村の湯湾沢周辺に広がるオオタニワタリ群生地、加計呂麻島の数々の手つかずのビーチなど、どれを取っても国内でも一級品の自然が広がっている。

こうした自然度の高さと人間との距離感は、国内でも奄美群島が群を抜いていると感じた。自然体験を求める旅行者にとって手に取る近さに本物の自然がある事は、何よりも好まれるだろう。今後は「見たら分かる」旅行者任せの観光だけでなく、認定ガイドを中心に「見えないものを解き明かす」きっかけを作れば、より奄美群島の価値は深まっていくと思われる。

今回の派遣期間中には、奄美群島の特殊性を現地ガイドのみなさんが熱く語る様子や、それらの資源を大切にしようとする姿勢にも、ガイド本来が持つ人間的な魅力を感じることができた。

②上記地域資源に魅力を感じた理由

昨年の派遣報告書と同様になってしまうが、奄美群島の魅力は無理な施設整備を行わず、その場の雰囲気大切にしている点にあると感じている。今回の国立公園指定、来年夏の世界自然遺産登録に向けて観光客の受入体制づくりが急ピッチで進められると思われるが、受け皿となる利用拠点と自然の核心部とが一律整備とならないよう、その場の雰囲気を大切にしてもらいたいと思う。

3) アドバイス（講義等）の概要

○湯湾岳散策

- ・ 交通規制について
- ・ 散策路の施設整備方法
- ・ 山頂一帯の立ち入り規制

○講演会「エコツアーガイドの役割とは？」

- ・ 尾瀬国立公園の概要
- ・ 尾瀬認定ガイド制度の概要
- ・ 尾瀬認定ガイドを依頼するメリット
- ・ 尾瀬認定ガイドの活動風景（団体客の場合、個人客の場合、教育旅行の場合）
- ・ 自然環境のモニタリング
- ・ 安全対策（主に傷病事故発生時の対応）
- ・ 地域とお客さまを結ぶ
- ・ 地域プロデューサーとしての役割
- ・ ガイドのレベルアップ方法
- ・ 尾瀬での保護活動事例紹介（クマ保護管理、ゾーニング、マイカー規制、植生復元、排水対策、入山規制、環境収容力）
- ・ 関連法規（自然公園法）

○大島南部視察

- ・ 湯湾沢のオオタニワタリ群生地の保護

4) エコツーリズム推進全体構想への取組状況・意向について

※当地は平成 29 年 2 月 15 日に全体構想が認定された。

5) 地域に対する印象、今後地域に期待すること（メッセージ）

当地への 2 回目のアドバイザー派遣であったが、前回と同様にその自然度の高さと保存状態、人間との距離感について圧倒された毎日であった。前回は訪問することのできなかった加計呂麻島や徳之島、そして沖永良部島を訪ねることもでき、大島と全く異なる自然環境と生活様式があることを知り、群島の自然史的背景や人間の歴史を肌で感じる事ができた。ここで生活する方々の自然との付き合い方が、結果として良い雰囲気を残しているのだと思う。今後は国立公園と世界自然遺産効果によって、数多くの旅行者で賑わうと思われる。自然を切り売るような受入れ方は論外だが、一過性の観光客だからと出し惜しみせず、一人でも多くの方に奄美群島の魅力を伝え、多くのファンを作る努力を行ってほしい。

来年夏の世界自然遺産登録を目指しての関係者のご努力は想像をはるかに越えるものだろう。しかし世界自然遺産登録をゴールとせず、物言えぬ自然の立場を常に尊重しながら、継続的な運営を行っていただくことを願っている。